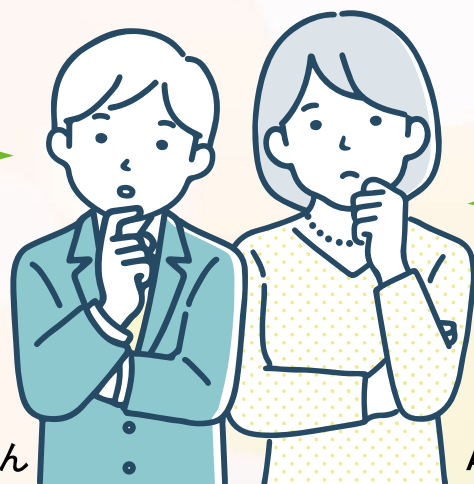


そのことば、誰かを傷つけてない？

よく聞く発言ですが



部落差別って昔のことでしょ？



Bさん

Aさん

わざわざ教えるから差別がなくならないんじゃないかな

部落差別は、今ここにある社会全体の問題です。部落差別の始まりは、昔々のことです。しかも、1871（明治4）年の「賤民廃止令（いわゆる解放令）」によって法的にはなくなっただけです。それなのに、今のときもインターネット上で、同和地区をあばいていく情報が拡散されたり、ひどい差別表現がくりかえされたりしているのはなぜでしょう。実際にある差別を解消するために、2016（平成28）年に「部落差別解消推進法」が制定されています。この法律の中には、部落差別は現存すると明記されています。

「知らぬが仏」ということわざがありますが、真実を知らないことが本当に幸せでしょうか。今日のように間違った情報があふれている社会の中で、いつだれが同和問題に出会うかわかりません。その出会いの中で、時には、予断や偏見が植えつけられるかもしれません。公教育の中では、差別の現実や人の痛みを知り、そこから何が正しいかを学び、豊かな社会をつくりあげていくために部落問題を教えています。



「マイクロアグレッション」

AさんとBさんは、差別する気持ちでこのような発言をしたわけではありませんでした。しかし、部落差別が身近で深刻な社会問題ととらえきれず、無関心で無関係な立場にあると思っています。

このような意識から生まれる発言が、気づかないうちに部落差別を受けている人の心を傷つけ、苦しめている要因にもなります。

これらのように、表現する側に自覚はないものの、日常的な言動の中で、社会的少数派に対して無知、偏見・無理解などを含む「小さな攻撃」が行われることを「マイクロアグレッション」といいます。

表現する側が無自覚であるため、何度も繰り返され、相手を傷つけてしまう行為となり、「私は差別なんてしていない」と思っている人も、知らず知らずのうちに誰かを傷つけている可能性があります。

まずは、自分自身の言動について今一度立ち止まって振り返ることが、社会の差別問題をなくしていく第一歩となります。

気づき・学び・変わる

令和3年に福岡県が実施した県民意識調査によると、「部落差別は一部の人の問題で自分とは関係ない」と考えている人が2割いることが明らかになりました。「関係ない」ととらえている人も日常の中で、無意識の偏見が言動に現れていることもあるかもしれません。

マイクロアグレッションは、日常に垣間見える「気づかれにくい差別」と言えます。その影響は、個人間にとどまりません。教育・就労・結婚・社会参加などあらゆる生活場面において不平等を温存助長させ、社会全体の格差を繰り返し生みだしていくことを下支えています。

ある被差別部落の方が話してくれたことがあります。

子どもの頃、友だちの家に遊びにいったとき、

「おうちはどこなの？」

「〇〇です。」

と答えた瞬間から、今までにこやかで優しくそうなお母さんの目が、急に冷やかになり険しい顔で奥に入っていた。その顔が歳をとった今も忘れられない。

「意図せず人を傷つけているならば、意図して学び、変わる」ことができるのが私たちです。

